

【開催レポート】10/9 コレクティブふくおか+ 実践プログラム② 社会課題・公益活動の
深掘り、フィールドワーク入門

Collective Fukuoka Plus

コレクティブ
ふくおか+

10/9(土)

15:00 - 18:00

オンライン

NPO法人福岡すまいの会 理事・事務局長

服部 広隆 さん



生活困窮者の居住支援等をするNPO法人福岡すまいの会で、困窮相談や法人本部業務に従事。西日本新聞にてコラム「すまうつながる」隔週連載中。

【開催レポート】実践プログラム② 社会課題・公益活動の深掘り、フィールドワーク入門

こんにちは！コレクティブふくおか+事務局です。

2021年10月9日、「コレクティブふくおか+」の実践プログラム②「社会課題・公益活動の深掘り、フィールドワーク入門」の開催レポートをお送りします。

社会課題・公益活動の深掘り、フィールドワーク入門

〈講師〉生活困窮者の居住支援等を行っている NPO 法人福岡すまいの会 理事・事務局長の 服部 広隆 さん



2. 対人支援倫理を考える

①(例)生活困窮者自立支援制度における相談支援員の3つの倫理と8つの基本姿勢

【一番大切なことは？】

望まれる人は、「人権感覚を持っていると自負する人」ではなく、
「人権感覚を備えることは難しい」
ことを自覚して、
「謙虚に見直している人」

2. 対人支援倫理を考える

⑤専門家でない「市民」の対人支援に求められる倫理

【大切なこと】

「対人支援には専門性が必要」であり、市民活動は「専門職ではない」という自覚がもっとも大切
しかし、専門職ではないから何もできないのではなく、「専門職ではないからこそ出来ること」がある。

「専門家でない」

「人権感覚を備えることは難しい」

「支援者はパターナリズムに陥りやすい」

●これらの自覚をしやすいたことが、市民を「専門家より倫理的な」支援者にする

・逆に「専門で」「人権感覚を備え」「正しい支援者だ」と思うと、「有害な支援」に。

服部さん：対人支援は専門性が必要だけど、市民活動で大事なことは、専門職になろうということではないです。専門職ではないからこそ、できることがあります。自分は「専門家でもないし、人権感覚を備えていません。パターナリズムに陥ってしまうことがある」ということを自覚し、そういったことが市民性と専門性のクロスポイントにあります。

逆に専門職こそ、専門家であることにこだわり「私は正しい、人権感覚がある」という態度はむしろ有害になります。市民でも、専門職でも、人権感覚を備えることは難しく、謙虚に見直すことが一番大事です。むしろ、市民活動こそ、謙虚になりやすいとも言えます。

リンク先：

<https://sumainokai.sakura.ne.jp/>

グループワーク

前回立ち上がった10個のプロジェクトチームに分かれ、自分たちが取り組みたい課題について深堀りしました。

フィールドワークに向けて

- フィールドワークの目的
 - **メンターの活動を謙虚にお尋ねし、自分たちが取り組みたい課題について理解を深めること**
 - 「問題があることを知っていること」と「問題の解決方法を知っていること」は必ずしもイコールではない (by宮田さん)
 - もしかしたら、メンターが答えを知っているという姿勢ではなく、活動を通じての知見を分けていただく姿勢。
⇒自分たちの関心ごとそのものの活動をしていなくてもOK!

Collective Fukuoka Plus



フィールドワークに向けて

立場の違いを尊重する



- **相手の立場を理解する**
「どうということから、そのような意見になったのでしょうか？」
- **自分の立場を表明する**
「私は〜〜と感じたんですが、いまの意見を聞いてどう思いますか？」
- **相手の意見が正しいとしたら、どのようにチームの検討の役に立つかを考える**
「いまA案とB案といい案が出ているけど、今後どうしようか？」
⇒AorBの議論、C案の提案、A+BのX案の発案など

Collective Fukuoka Plus



参加者の声

ご参加いただいた方をご紹介します。

社会問題に関する倫理についてお話を聞いて良かったです。話し合いによって自分が何を考えているかが再認識できますし、相手の新たな意見を聞くことで視野が広がるのでとても楽しい議論の場でした。

支援を通して理想を追い求めてしまいすぎて、逆に支援者が問題を抱えてしまうケースがあることを今回初めて知りました。また、そうならないためにも周りの人が支援者とコミュニケーションをはかっていくことが大事なのではないかと思います。

正しい指摘が何の力ももたないことがあることを気付かされました。正しさの押し付けではなく、どう変えて変わっていくのか考えていきたいです。また、人権感覚について驕らず謙虚は姿勢を大切にしたいと思います。

次回からは、記事の作り方や取材方法などをしっかりと学べる講座を2回にわたって実施します。Navi-raz 編集長の砂畑 龍太郎さんにご登場いただき、ライティングに必要な基礎知識とスキルを身につけます。11月から始まるフィールドワークでは、市民公益活動の実践者の現場に伺い、インタビューを行います。